

バイオ・ライフサイエンス



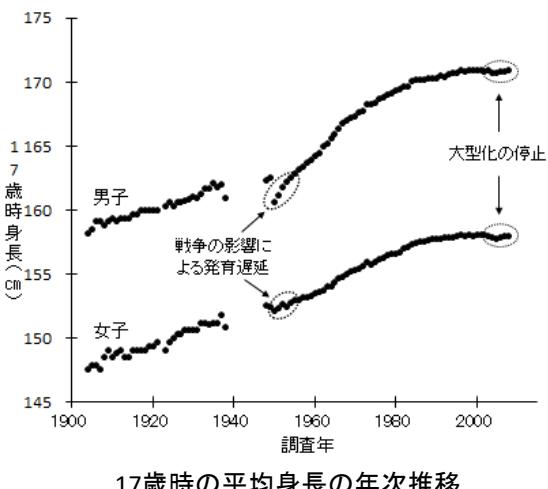
キーワード：成長、発育発達、学校保健

子どもの成長・発育の社会的影響

現代社会学部 現代社会学科 教授
後和 美朝 GOWA Yoshiaki

研究の内容

個々の子ども達の成長や発育発達のステージを正確に確認するためには、骨年齢などの生理的年齢の把握が必要になりますが、日々の身長や体重の変化を観察することでも確認することができますし、例えば身長発育からPHV（Peak Height Velocity）年齢などを算出すれば発育急進期を探ることもできます。このような成長のステージを知ることは、運動指導の適時性や肥満指導などにも役立ちます。また、集団で見た場合、子ども達の成長や発育発達は様々な社会的影響を受けています。日本においても第二次世界大戦によって、子ども達の発育促進現象（時代により生理学的・生物学的に成熟が早まる現象）が一時停滞し、戦後の社会経済的発展とともに再び発育促進現象がみられましたが、現代ではほぼ終了しています。成人人身長のsecular trendについてもほぼ停止していますが、体重については日本の子ども達の各年齢別でみると減少傾向がみられています。平均体重で1kg減少している年齢もありますので、明らかに社会的影響が考えられます。一方で極端な肥満の子ども達がいることも事実ですので、このような子ども達の背景要因についての研究も進めています。



産学連携・社会連携へのアピールポイント

成長や発育発達は小さい子どもを対象にした研究のように思われがちですが、研究対象は思春期から青年期に至るまでで、特に思春期のように精神的な影響を受けやすい年齢層については心理調査も行い、色々な側面から成長や発育発達についてアプローチしています。

研究者総覧（後和 美朝）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000671_ja.html

